

令和6年度 第1回 城陽市環境審議会 議事録

日時		令和6年10月16日（水） 午前10時～11時
場所		城陽市役所本庁舎2階 第1会議室
議題		◆委嘱書の交付 ◆会長、副会長の選出 ◆会議 ①令和5年度城陽市環境測定結果について ②城陽環境パートナーシップ会議事業報告について
出席者	委員	新川会長、中川副会長、山縣委員、中原委員、安村委員、弘本委員、宮永委員、山岡委員、小谷委員
	行政 (事務局)	奥田市長、森田市民環境部長、堤市民環境部次長、成田環境課長、太田主任

＜質疑等の概要＞

(以下、会長発言を「会」、委員発言を「委」、事務局発言を「事」とする。)

◆委嘱書の交付

◆会長、副会長の選出

城陽市環境審議会規則第2条に基づき、互選により「新川委員を会長に推薦する」という意見があり、新川委員を会長に選出。

城陽市環境審議会第2条に基づき、会長が中川委員を副会長に指名。中川委員を副会長に選出。

①令和5年度城陽市環境測定結果について

事務局より説明。

会) ただいま令和5年度環境測定結果について事務局より報告を受けました。この議題につきまして、ご質問、ご意見等いただければと思います。よろしくお願いいたします。

委) 公共用水域や地下水について、日本各地でPFASが水道水源に含まれているといった報道が多くあり、不安が高まっている状況ですが、国や京都府から通達等があるのか教えてください。

事) 国がPFASの取り扱いの手引きを作成しており、公共用水域や地下水の所管である京都府において、手引き等の通達に基づいて対応していくことを確認しております。

会) 本市において、PFASの問題事例は報告されていないとの認識でよろしいですか。

事) PFASにつきましては、京都府のホームページ上で公表されており、城陽市内2地点で検出されているとの結果が掲載されております。

- 委) 3 ページの公共用水域でのSSについてですが、今池川や長谷川の数値が高くなっています。犬の散歩の際、今池川を見て歩いていると、普段は綺麗ですが、雨が降ると大変濁っている状況です。雨が降ると、川の斜面の土砂が侵食されるなどの影響で一時的に濁ることはありますが、今池川では雨が止んだ後も濁っていることを確認しています。以前から環境課にお願いし、本件の原因の調査をしていただいているところではありますが、環境測定の実測結果はどのような意味をもつのでしょうか。濁った水を測定したことがあります、数万 ppm～数十万 ppm 程度の結果となりました。また、今池川では、河川床には汚れが溜まっており、亀や鯉が動くと濁る状況となっています。しかし、環境課での測定結果を見ると、このような濁りが結果に反映されていないように感じています。そこで城陽市に対し、この濁りの原因究明や、測定の実施についてお願いしましたが、濁度計やpHメーターなどが無いため測定できないとの回答がありました。事故があった際などに迅速に測定できるよう、測定機器を所有しておくべきではないでしょうか。
- 会) 事務局側で対応しづらい部分もあるかと思いますが、重要なご意見ですので、しっかり受け止めていただければと思います。
- 事) 公共用水域の測定場所について12ページに記載しておりますが、今池川の通常採水地点は下流となっており、大きな濁りが発生している箇所より下流側になりますので、採水地点では濁りが落ち着いている状況となっています。濁りの原因については課内で調査中となっておりまして、工事の影響ではないかというところまでたどり着いておりますが、確証を得るに至っていないため、相手方へのお伝えはできていない状況です。また、測定機器につきまして検討は進めますが、公共用水域につきましては京都府の所管となりますので、何か問題が発生した場合には、迅速に京都府に連絡をする体制としています。
- 委) 測定の時期につきまして、気候環境が変化している中で、雨の降り方などの変化と測定の仕方などの関係性を見直す必要があるかもしれないと感じています。例えば、学校の環境教育やパートナーシップ会議の活動と連携しながら、河川状況をウォッチしていくなどの活動に広げていくきっかけになればと思いました。
- 会) 法令上の環境測定は継続的に実施する必要がありますが、環境自体の変化の中で環境問題への新しい工夫をしていくことで、地域の皆さんと共に問題を発見したり認識を共有したりする貴重な機会かと思っておりますので、このような観点もご検討いただければと思います。
- 委) これまでの環境審議会の議事録を読み返していたところ、非常に重要なご指摘が多くありましたが、指摘に対する対応結果が見えてこない状況となっています。私は以前に、環境課だけで取組を進めるには財政的な課題などがある場合、関連部署と協力しての横断的な取組を進めてはとの提案をさせていただきましたが、その結果報告があれば状況が分かるので、取組実績などがあれば審議会場で報告いただきたいと思います。

- 会) 審議会で出たご意見に対する結果が常にフィードバックされているわけではありませんが、審議会の役割としても言いっぱなしではなくフォローをしていきたいので、事務局側もできる限りの対応をお願いできればと思います。
- 事) 横断的な取組とのご意見をいただきましたが、例えば、環境政策推進本部会議という部長級以上の会議がありまして、こちらで環境施策について諮ったり関係各課への協力依頼を発信したりしているところです。また、今夏には熱中症特別警戒アラートについて、クーリングシェルターの設置にあたり関係各課と連携を取りながら実施している状況がありますので、この場で報告させていただきます。
- 会) その他ご意見はございますか。
- それでは、令和5年度城陽市環境測定結果については以上とします。

②城陽環境パートナーシップ会議事業報告について

事務局より説明。

- 会) 城陽環境パートナーシップ会議における令和5年度の事業報告、本年度の事業計画でした。各委員からご質問等ございましたら、お伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。
- 委) 情報提供になりますが、マイボトルの普及が進んでいると感じていまして、原動力の一つであるウォーターサーバーが公共施設に広がってきており、京都市では公共施設への設置やウォーターサーバーのある場所のマップの作成などを実施しています。城陽市でも、このような展開ができれば面白いと思います。
- 会) 全国的にも、各学校施設等でウォーターサーバーが積極的に導入されていたり、大規模イベントにて特設のウォーターサーバーが設置されていたりしますので、城陽市においてもマイボトル推進をご検討いただければと思います。
- 委) 昨年度の環境フォーラムにおいて、小学生が発表をされていましたが、その際に小学生が成田課長と親しげに話している姿を見て、環境課から小学校などに出向いてらっしゃるのかなと感じましたが、いかがでしょうか。
- 事) 小学校と連携しどんぐりやまプロジェクトを実施している中で、学校の先生からどんぐりやまプロジェクトを題材に授業をしたいとの要望があり、何度か学校に訪問している中で親しくなったのかなと思っています。
- 会) どんぐりやまプロジェクトにおいては、各学校に出向かれて学習のお手伝いをされたりというところで進めてらっしゃると思います。今年度の予定はいかがでしょうか。
- 事) 今年度については、これから実施予定です。11月に木津川運動公園で植樹を行う予定です。子どもたちが拾い育てたどんぐりを山に戻そうというのが一連の流れとなっております。その中で学校に出向いて環境教育を行い、子どもたちに自然や環境を考えるきっかけにしてもらいたいとの想いで実施しています。なお、令和4年度には保育園で実施しましたが、教育という観点から年齢を考慮し、令和5年度以降は小学校にお声がけを行い、希望のあった2校の小学校で実施しています。今後は他の小学校でも実施できればと思いますが、校数については調整が必要となると考えています。

- 委) 小学生だけでなく、中学生を対象としたプロジェクトがあってもいいかなと思います。
- 小学生時代に体験したどんぐりやまプロジェクトから繋げていければいいと感じます。
- 事) 課題としては植樹場所となっていて、関係課とも連携し、植樹場所を探しているところでは。植樹場所が見つければ、植樹した木は残っていきますし、小学校、中学校、高校、大人になっても一緒になって城陽市の緑を増やしていければと考えています。こちらも横断的な取組が重要となってきますので、木津川運動公園が森の再生をテーマに取り組みながら公園が出来ていることもありますし、東部丘陵地一帯の森の再生に繋がっていければと思います。
- 委) 環境フォーラムに沢山の方が参加されたり、気候変動と生き物の関係について講演されたり、すごく良いことだと思いますが、今後、気候変動による魚、野菜、動物、虫の変化などの調査研究を行ったり、市民研究者を育てていくといった研究的な要素を入れることで、研究に興味を持った方が関わってくれることになるのではと思いました。また、研究成果を施策に生かしていくことで、城陽市ならではのものができるといい気がしますので、パートナーシップ会議などの中で考えていってもいいのではないかと思います。
- 委) 今のお話は City Scientist かと思いますが、市民みんなでやればよいとの考えを外国で実践していることが多く、例えばネパールでは、日本のようなアメダスといった雨量計がないため、市民がペットボトルを使って雨量を調査し、結果を携帯で連絡することで、雨の分布が分かるようになっています。このように、市民の科学的な取組が大切で、先程委員がおっしゃった取組であったり、どんぐりやまプロジェクトであったり、人によって異なる視点を持つことで勉強に繋がり、みんなが科学に関心を持つことで、環境保全に繋がっていくと感じます。城陽市でもこのような取組が進むといいと思います。
- 会) City Scientist は環境問題に入りやすいですし、市民活動にも親和性が高いので、パートナーシップ会議においても検討いただければと思います。パートナーシップ会議には、環境問題や自然生物の専門の方がいらっしゃいますので、そういった先生方とも連携しながら市民が学んでいく、新たな発見をしていく機会があれば次の発展に繋がると思います。
- 会) その他ご意見はございますか。それでは、城陽環境パートナーシップ会議事業報告については以上とします。その他事務局からございますか。
- 事) お配りした生き物ガイドブックは、城陽市で見られる魚を中心に選んで作成いただいたものになります。散歩などで川沿いを歩かれる際などに、魚の種類を調べるためにご活用いただければと思います。
- 会) それでは本日の会議は、以上で終了させていただきます。
- 真摯な議論をありがとうございました。

以上